

研修主題

『自分の考えをもち、表現できる児童の育成』—主体的な学び合いを取り入れた国語科指導を通して—

内容：職員研修会について 講師：池田指導主事

「一年間の研修の見通しをもちたい」という職員の希望で、校内研修の公開授業が始まる前の6月1日にもちました。講師に、学校教育課指導係・指導主事 池田 瑞輝先生をお招きし、「じぶんの考えをもつ児童を育てるために国語科ができること」というテーマでお話をいただきました。

●「赤堀小校内研修における昨年度の課題」

考えをもてない児童への対応

「じぶんの考えをもたせる」ためには・・・

『支援』と『指導』を整理していくことが大切。

『指導』「いつまでに、どのような言語能力を身につけるか。」(ステップ)

『支援』「言語能力を引き出すために手立てを考える。」(薄めていく)

※だんだん、支援をしなくても子どもたちの考えがもてるように、意見が出るような手立てをとる。**支援を(意図的に)減らしていく**



●大切にすることは・・・

児童に考えを引き出させる場面にむけた、それまでの教師の準備。

本人を取り巻く環境への働きかけ。

- ・教室、教材教具・・・整備、工夫
- ・クラスの友達・・・班編制、役割分担
- ・先生・・・発問、声かけ、授業改善

●「児童にじぶんの考えをもたせるために・・・

わかりやすい順番・表現で伝える。考えさせる。

①「持ち寄って」学び合う。

具体物(自分の考え)をもって話し合いに参加させる。

既習事項に結びつく手がかりをもって参加させる。

②「目的を明確にして」学び合う。

合意形成、共有、助言なのかはっきりしめす。

課題意識をもたせる=**めあて**を大切にする。

池田先生のお話を聞いて・・・

今までの自分の行ってきた交流活動を振り返るきっかけとなりました。ワークショップで取り組んだ、「自分の考えがもてない児童に対して、どのように対応しますか。」という質問に対して、職員同士で対応方法を協議することができました。普段なかなか、対応方法を職員間で共有することができないので、とても良い機会でした。また、児童の話し合いの様子を録音して、自分たちがどんな話し合いをしていたのか客観的に聴く活動や、教師も語彙を豊かにするなどを教えていただきました。新しい指導方法を積極的に取り入れ、工夫する教師の姿勢が大切なのだと改めて実感しました。

今回、池田先生から教えていただいたことを、日々の授業の手立てとして生かしていきたいと思えます。

忙しい中にもかかわらず！お話をし
ていただきまして、
池田先生、ありがとう
ございました。

